

第 5 2 7 回 遊 佐 町 議 会 定 例 会 一 般 質 問 通 告 書

平成 3 0 年 9 月 定 例 会

通 告 順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
1	6 番 赤塚 英一 (一問一答)	1. 教育環境の整備と充実を図るべきでは	<p>子供達に、世の中の変化に対応していける十分なスキルを身につけさせるための教育環境の充実は、大きな責務だと思う。教育環境の整備と充実を図る施策をどのようにするのかを伺う。</p>
2	3 番 菅原 和幸 (一問一答)	1. 豪雨時の対応と水防について	<p>西日本豪雨では、河川堤防の決壊等で甚大な被害が発生したが、8月5日に本町付近でも「記録的短時間大雨情報」が発表される豪雨があった。</p> <p>県は「平成30年度以降の水防計画」をこの7月に公表した。一方、「遊佐町災害対策基本条例」では、町民は自ら災害に合わないよう情報を取得し、災害対策に協力しなければならないとされている。町民への情報提供のあり方、災害が発生した場合の対応等について、課題はないか伺う。</p> <p>本町での水防管理団体として、県水防計画書では「遊佐町」「月光川水害予防組合」とされている。防災会議条例における「月光川水害予防組合」の位置づけについて伺う。</p> <p>昨年、二級河川月光川水系流域委員会で検討されたが、河川改修事業について、町はどのような意見を述べられたか伺う。</p>
		2. 水稻の白穂被害について	<p>高温が続いた今夏、本町の一部の水田で平成16年の台風15号での潮風害に似た“白穂”が目立つ。</p> <p>県も調査を進めているが、農業関連団体等からの情報による現状の把握と、このたびの被害に対する本町の対応について伺う。</p>

通告順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
3	2 番 松永 裕美 (一問一答)	1. 小中学生の成長課題対策を	<ul style="list-style-type: none"> ・日々刻々と迫る町立小学校の統合で、複数の小学校が一つになった際に想定される課題についての対策は？ ・中学生が自分の進路に悩んだ際に一番参考になるであろう遊佐中卒業生を招いての「活き活き講義」の提案。
		2. 職員人材の確保と育成を	<ul style="list-style-type: none"> ・新卒採用は重要であると認識しているが、民間企業等様々な職種を経験した高いスキルを持つ人材やUターン採用枠の年齢制限を若干延ばすなどの緩和も将来の当町にとって有益になるのでは。 ・8月に実施された内閣府地方分権改革推進室主催の研修はどのようなものであったか。参加人数・成果は。
4	7 番 阿部 満吉 (一問一答)	1. P A T 計画の進展は	<p>この春米沢の道の駅が開業した。そして1カ月前、秋田県能代市二ツ井町に道の駅二ツ井がオープンしている。どちらも地域の特産物や食材を求めて、観光客がおしよせている。</p> <p>さて、当町の新道の駅計画は進んでいるのか。</p>
		2. 交通弱者対策を	<p>免許返納タクシー券、福祉タクシー券など制度はあるが、いたって健康、もともと免許のない人にはあてはまらない。酒田市内への通院、買い物弱者対策としての、高齢者タクシー券を。</p>
5	1 番 齋藤 武 (一問一答)	1. 町の観光政策は時代に即しているのか	<p>遊佐町そのものや町内の観光名所と言われる場所が、全国的にも知られつつあることは好ましいことであるが、一方では「観光公害」や「オーバーツーリズム」と呼ばれる現象が全国各地で発生している。現時点でこれらの現象が町内で著しいということはないものの、予兆は見受けられる。</p> <p>一方、増加している訪日外国人が、今後は東北地方を本格的に訪れる可能性がある。</p> <p>ここしばらくの町の観光政策は、どちらかと言えば情報発信に重きが置かれていたと考えるが、これからはそれ以上に、関係者の合意形成に基づいた観光資源の保全やマンパワーの持続的確保などが重要と考える。</p> <p>時代に即しあるいは時代を先取りした観光政策を、早急に打ち立てるべきではないか。</p>

通告順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
6	5 番 土門 勝子 (一問一答)	1. 空き家にしない予防対策は	町全体で空き家が528戸あり、その内活用可能な家屋は定住促進施策で再利用などしているが、増加の一途を辿っている。 このままでは次世代に負の財産を残すことになる。近年、災害や鳥獣類も多く、住民の安全、安心な生活も危惧される。特効薬はないと思うが、予防は可能と思われる。所見を伺う。
		2. シンプルできれいな公共建物を	衰退が懸念される中心市街地エリアに新庁舎・若者定住町営住宅の建設が並行して行われる。 すべての人が親しみやすさを感じられる、シンプルできれいなトータル的にバランスのとれた、ユニバーサルデザインを望むが、町の考えは。
7	4 番 筒井 義昭 (一問一答)	1. 鳥海・飛島ジオパークが日本ジオパークに認定され3年目を迎えるが、周知・ガイドの養成・ジオ認定商品の開発を含めた現状と課題を伺う	2016年の9月に鳥海・飛島ジオパークが日本ジオパークに認定され3年目を迎えるが、認定後に取り組まれた周知・ガイドの養成とスキルアップ・6月から募集されている認定商品の申請状況を伺う。 また2年間の取り組みにおける課題の把握と改善に向けた取り組みを伺う。
		2. 小中学校における就学環境の向上を	地球温暖化により猛暑・酷暑ともいえる夏を迎える時代となり、今年も6月中旬より7月にかけて暑い日が続いた。 小中学校への冷房装置の設置が山形県の自治体でも進められているが、遊佐町においては教室への冷房装置の配置は0であるとの報道がなされた。 就学環境の向上に向けた、冷房装置配備計画に着手すべきと考える。

通告順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
8	10番 斎藤 弥志夫 (一問一答)	1. 海岸の浸食対策	吹浦漁港～酒田北港間では宮海地区・比子地区の浸食および吹浦漁港で堆積が発生している。酒田港～湯野浜間では浜中、七窪地区で浸食が発生している。漂砂は季節的に変動するものの、全体的に北向きの沿岸漂砂が強い。海岸の浸食対策については西遊佐のまちづくりセンターの関係者が県に要望書を提出して、4億円ほどの予算を付けてもらった経緯もあるようだが、今後の浸食対策事業をどのように進めていくのか全体像を伺う。
		2. 鳥海山の知名度不足	山岳信仰の対象で美しさが魅力の鳥海山には野生の貴重な動植物が数多く生息し、夏に200種以上の高山植物が確認される名山である。だが、依然として知名度は低く今後の課題である。輝くものがありながら、認知度が低い鳥海山の知名度向上対策を伺う。
9	9番 高橋 冠治 (一問一答)	1. 遊佐パーキングエリアタウンの進捗状況は	日沿道の酒田みなとインターから遊佐インターまで、事業着手をして10年をむかえたが、町の将来を大きく左右する遊佐パーキングエリアタウン計画の姿が未だにはっきりとしない。 町民の期待も大きい事業であり現在行っている、関連機関との協議はどの様なものか、また計画自体の進捗状況は。
10	8番 佐藤 智則 (一問一答)	1. 遊ぼっと（グラウンドゴルフ）施設整備の補完を	グラウンドゴルフは高齢者の方が生涯を通じて取り組めるスポーツの開発をしたいと云う思いから、昭和57年に鳥取県で誕生した。今や、グラウンドゴルフは360万人の愛好者がいるメジャーなスポーツとなっている。 我が町にも文殊橋下流のゴルフ施設、旧稲川小学校跡地の総合運動公園、そして遊ぼっとのゴルフ施設がある。その中の遊ぼっとのゴルフコースは本来砂地であった所にコースを設置し、多年にわたる芝の植栽、土壌改良等が行われてきた。しかし、まだ良きコース状況とは云えない。平成30年度の飽海地区グラウンドゴルフ大会が7月27日に遊ぼっとで行われ200人近い参加者があり、旧八幡町、平田町、松山町、遊佐町の参加で開催された。参加された他町の皆さんの声として、コースが特色のある変化に富んだコースでおもしろいとの声や、砂畑でやっているようだの声があり、評価とすれば今一、他町の参加者から好評の声は多くはなかったと聞く。施設整備（コース）の継続した補完が必要と思うが。